

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Contribution of knee adduction moment impulse to pain and disability in Japanese women with medial knee osteoarthritis <<筆頭論文>>	共著	2010 Jul 21.	Clinical Biomechanics 25 (2010) 914-919	Our results suggest that increasing in the knee adduction moment impulse, a proxy for loading on the medial compartment of the knee, is related to increased pain during weight-bearing activities such as walking, thereby restricting walking performance and causing disability by reducing gait velocity. Thus, the reduction in the knee adduction moment impulse during gait may result in pain relief and may serve as a conservative treatment option with disease-modifying potential. (pp 6) (Kito N, Shinkoda K, Yamasaki T, Kanemura N, Anan M, Okanishi N, Ozawa J, Moriyama H.) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
2 (学術論文) 中高齢者の膝関節痛の発生 機序となる筋機能の力学的 因子の解明を予防と進行防 止に導く運動療法の開発 《筆頭論文》	共著	平成 21 年度 2 月	医科学応用研究財 団研究報告 Vol. 26, pp.79-87	歩行時の外部膝関節内反モーメントと膝関 節・股関節の筋力を内側型変形性膝関節症(膝 OA)群と対照群で比較した。膝 OA 群では対 照群より歩行時の外部膝関節内反モーメント は最大ピーク、立脚中期ともに有意に高く、 外部膝関節内反モーメント力積も有意に大き かった。膝 OA 群は対照群より膝関節伸展、 股関節伸展、股関節外転、股関節内転の最大 等尺性筋力は有意に低かった。立歩行時の筋 電図の wavelet 変換による時間周波数解析で は、大臀筋上部線維において差分中間周波数 は、膝 OA 群は対照群よりも有意に低かった。 (8 頁) (木藤伸宏, 山崎貴博, 新小田幸一, 金村尚 彦, 加藤浩, 石井慎一郎, 阿南雅也, 岡西奈 津子, 佐々木久登, 田中幸子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出 不可能。
3 (著書) 外来整形外科のための退行 変性疾患の理学療法	共著	平成 22 年 6 月	医歯薬出版株式会 社	本書は外来通院される整形外科疾患患者の理 学療法の治療指針について、整形外科医と理 学療法士が書いた書物である。内容は機能解 剖学、整形外科の診断、理学療法評価と治療 内容を含み書かれている。 (213 頁) (編集：小関博久) (著者：小関博久, 入谷誠, 上田泰久, 柿崎 藤泰, 木藤伸宏, 小関光美, 財前知典, 関口 剛, 田中亮, 平山哲郎, 福井勉) 担当部分：「変形性膝関節症の評価と治療」 変形性関節症に対する理学療法評価および理 学療法実践の概論について述べている。 (pp. 30-41 単著)